ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E140A007	学校教育におけるＩＣＴ活用 (ICT utilization of school education)		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
選択必修	2	2・3・4	教育学部		水2	日本語	英語	複数(共同)

担当教員	氏名　中原久志，市原靖士，杉山昇太郎 E-mail　nakaharah@oita-u.ac.jp（中原）　内線　7590（中原）
授業の概要	本講義では，ICT活用に関する実践的指導力を身に付けることを目的とし，学校現場におけるICTの実態（タブレット端末，電子黒板，デジタル教科書等）を踏まえ，児童・生徒の情意を喚起するICT活用の方法や各教科の特性に応じた活用方法について概観し，試行的な授業づくりを通して「学びを深めるICT活用」を考察する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	教育現場におけるICT活用について基礎的な知識・技能を習得する	○		○				
目標2	教材制作実習を通して実践的指導力を身につける	○		○				
目標3								
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
	各DPへの関連度（計10）	6		4				

授業の内容	
1	オリエンテーション（担当：中原）
2	ICT活用教育の考え方（担当：中原）
3	ICT機器の特徴と効果的な使用方法（担当：中原）
4	ICTを活用した授業実践の事例検討（担当：中原）
5	教科・単元に応じたICT活用（担当：中原）
6	ICT教材に必要な要件の検討，活動システムモデルとICT活用形態（担当：中原）
7	校務処理システム：マクロVBA（担当：杉山）
8	プレゼンテーションソフトの活用（担当：杉山）
9	プレゼンテーションソフトを用いた教材開発実習：構想（担当：杉山）
10	プレゼンテーションソフトを用いた教材開発実習：作成（担当：杉山）
11	開発した教材を用いたマイクロティーチング（１）（担当：市原）
12	開発した教材を用いたマイクロティーチング（２）（担当：市原）
13	教材の相互評価と改善（担当：市原）
14	SNSと情報モラル教育（担当：市原）
15	学校におけるセキュリティとアダプティブラーニング（担当：中原）

アクティブラーニング				
A:知識の定着・確認	○	実技，ディスカッション，評価	その他の工夫	
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	事前配布資料を熟読する【15H】
	事後学修	課題レポートを作成する【30H】
	想定時間合計	

教科書	随時プリント資料を配付する
参考書	なし

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	学習への取り組み状況	20%	○	○								
	製作物	40%	○	○								
	定期考査	40%	○	○								

注意事項	受講制限：20名
備考	
リンク	
	URL
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	中原・市原（中学校教員），杉山（高校教員）